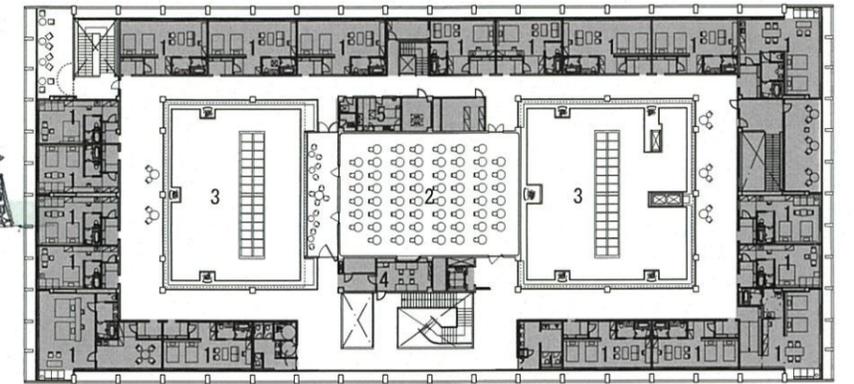
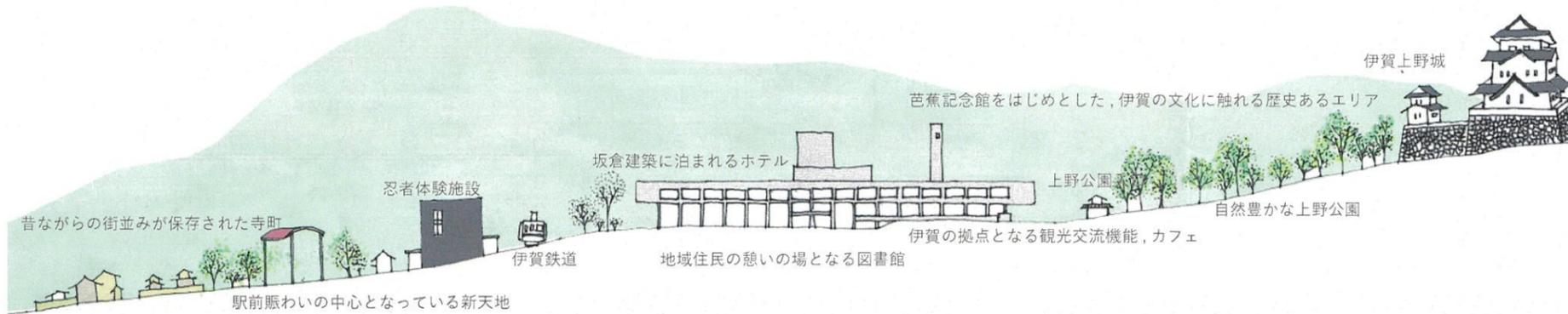


伊賀市旧上野市庁舎再生計画

REVITALIZATION OF THE FORMER UENO CITY HALL



2F平面図 : S=1/650

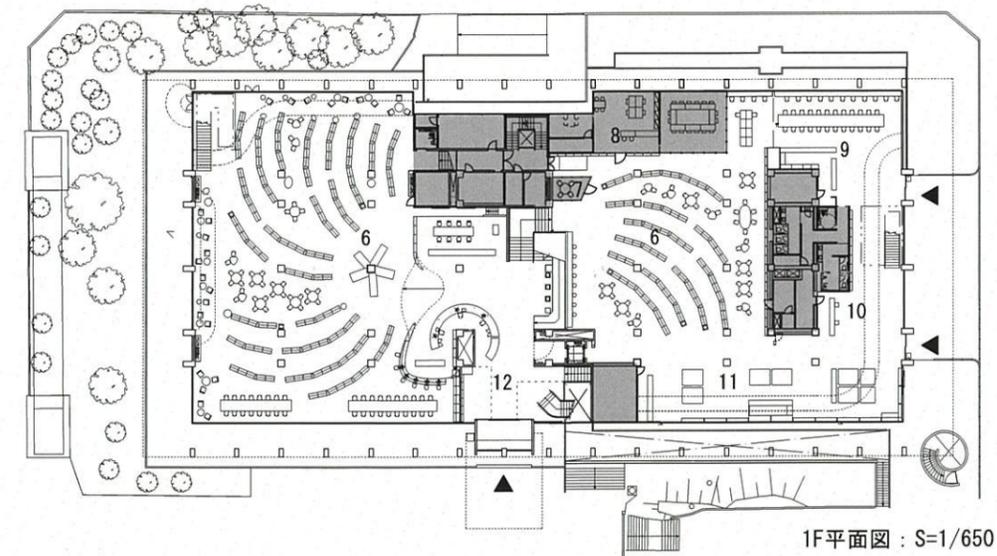
伊賀市旧上野市庁舎は、坂倉準三により設計された一群の公共施設の一つである。1964年に竣工し、老朽化に伴い他の施設と同様に解体の危機に瀕したが、市民による長年の保存運動の果てに2019年に市の文化財に指定され、活用検討へと向かった。2022年に図書館機能を中心としたPFI事業の公募が行われ、私達 MARU. architecture も名を連ねる事業者からホテルを併設する提案を行い、採択された。

敷地は上野城へと繋がる傾斜地の途中にあり、地階から1階は地形を飲み込むようにしてスキップフロア状にまちに開かれた広場のような空間性を持っている。ピロティで浮かぶ2階は2つの中庭を内包し、空に開いてかつては光を1階まで届けていた。

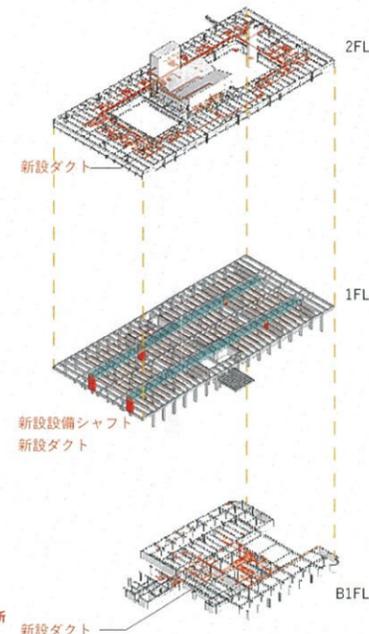
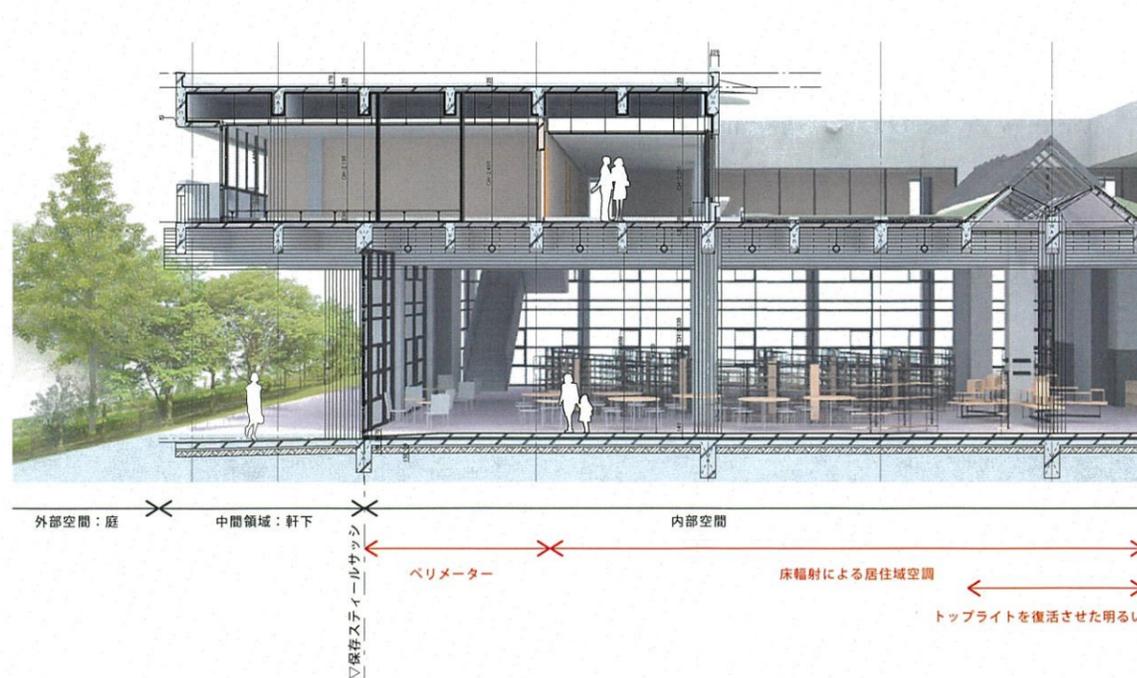
このような地形や風土と連続するあり方を手がかりに、ふるまいと環境の新たな関係を結ぶことを考えた。具体的には、既存空間の持つ内・半屋外・外といった環境的レイヤーをより多層化し、守られた現代の居住環境と屋外環境の関係を段階的に繋ぐ試みである。

図書館のメインフロアとなる1階は断熱性能のないサッシまわりを半屋内と位置付けて、床輻射空調と軒下（半屋外）の間の半空調エリアとした。床を嵩上げた床輻射エリアから既存外構へとつながりながら、外部への意識を高めている。またグリッド天井の間にメッシュ幕を下げて、柱梁を美しくあらわしながら幕間を設備が将来に渡って自由に走ることでできる明るい余白をつくった。書架は自然通風を導くように配置し、挿入した縦動線によって立体回遊性を高め、新たな視点場を獲得した。

ホテル客室フロアである2階は、中庭を囲むラウンジ的廊下と客室の間に小さなポーチを設け、パブリックとプライベートを介するギャラリーとして繋ぎ止めた。客室のサッシには障子をはめ、まちや外気との関係を調停している。

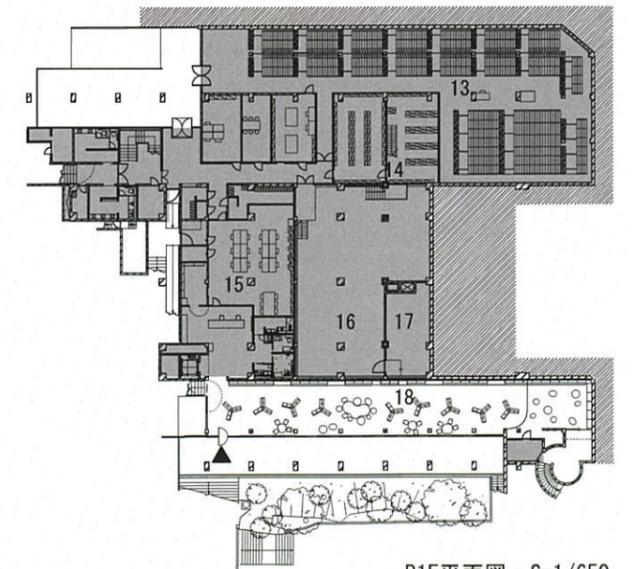


1F平面図 : S=1/650



グレー部分：入場不可

- 1 客室：全19室
- 2 学習・集会室（旧議場）
- 3 中庭
- 4 ホテル事務室
- 5 厨房
- 6 一般開架
- 7 対面朗読室
- 8 事務所
- 9 カフェ
- 10 ホテルレセプション
- 11 物販販売所
- 12 エントランスホール
- 13 閉架書庫
- 14 貴重書庫
- 15 図書館事務室
- 16 機械室
- 17 電気室
- 18 児童開架



B1F平面図 : S=1/650